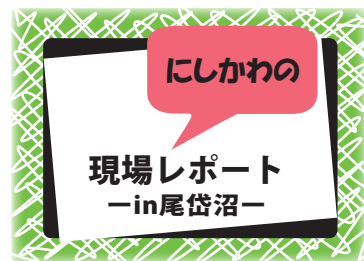




尾岱沼漁港 作業現場の皆さん



私も一緒に撮ってもらいました (^^)



資源循環型社会を創造。



一般社団法人 泥土リサイクル協会

<http://www.deido-recycling.jp>

〒492-8266 愛知県稲沢市横地町12

TEL : 0587-23-2713 FAX:0587-23-2734

これから、全国各地で行われていく泥土処理現場をわたくし西川が訪問をして、女性の目からみた感想をレポートしていきます。

今回は、昨年引き続き実施されている北海道尾岱沼漁港の浚渫土砂改良現場をご報告いたします。



Step 1

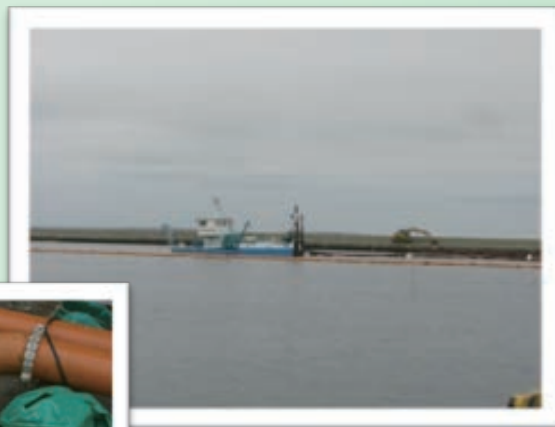
漁港内より ポンプ浚渫

配管の長さ：約 600m

14m³/min (840m³/h)

赤の配管：浚渫土砂が入る

オレンジの配管：海水として排出



Step 2

泥と泥水に 分離

砂および石の除去

(※作業員 2 人でポンプの詰まりをチェック)

→砂が詰まったらポンプ船に連絡をして、

一度海水のみを流してもらい、詰まりを

除去する



Step 3

浚渫土砂貯槽
タンク 計4槽

第1～第3槽：泥と水を分離

→ 薬を添加 1. 無機凝集剤
2. 高分子凝集剤

※きれいにした海水を海に戻す

第4槽：泥土タンク

(含水率 約85% ※ただし、下の方は90～95%)

上に泥水、下に泥が沈殿され、沈殿した泥を攪拌する(調泥)



Step 4

脱水

8台の脱水機で脱水処理(遠心分離)

→脱水で分離された水は再度Step3の工程へ
(きれいな海水にして海に戻す)



Step 5

粒状固化装置へ

脱水した泥土をベルトコンベアで粒状固化処理装置へと運ぶ



Step 6

泥と泥水に
分離

イーキューブシステムにより改良

固化材：170Kg/m³

高分子凝集剤：13kg/m³



Step 7

仮置き場へ搬入



改良後は普通ダンプに積込み場外に搬出しています



Step 8

仮置き場



改良土は近隣の盛土として利用されます
(※写真は仮置き状況)

ポンプ浚渫から脱水処理工程を経て粒状固化処理装置によって泥が改良されるまでの一連の流れを見学させていただき、実際にどのような手順で含水率の高い泥土が改良されているのか、また、その日に出てくる泥の性状によって、脱水処理や固化材の添加量等を変化させていることを知り、現場の皆さんの様々な努力によって、安全・安心な施工がされている事が分かりました。

千葉所長をはじめ現場の皆さん、お忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございました。

西川

